

ピアホームだより

2011.12.10

症例検討会

10月17日、顧問白石先生を迎え、症例検討会を持ちました。8月母を亡くし、葬儀、田舎の整理、四十九日など、後始末に追われ、検討が延びていました。

その間に、ご相談しようと思っていた、〇六さんが、取りあえず退院となり、徐々に調子を取り戻してきたことから、現状報告をし、振り返りをすることにしました。

リトルハウスからは、今現在ホットな問題を抱える〇金さん、〇之〇さん、〇部さんを取り上げ検討いただきました。

〇六さん

今回の震災をきっかけに急速に悪化しました。これまで、エピソードは初発時、リトルハウス通所時にあります。リトルハウスでの再発時—徐々に悪化するとともに、服薬し

なくなり、幻聴・空笑が酷くなり緊急入院。今回は異常な高揚感があり、1週間ほどで緊急措置入院となりました。服薬はしていた点は前回と大きく違います。

入院後、薬物追加増量、ESTを繰り返すも、一進一退を繰り返し、十分な回復を見ぬ前に、見切り発車で退院。その後は、ゆっくり回復基調にあります。

検討の結果

症状としては、そう状態と捉えるべきものだったかもしれません。リチウムを服薬し、本人の同意を得て、2カ月ぐらい閉鎖でしっかり集中治療することで、早期に復帰できた可能性があるようです。今後、チェック症状を見逃さず、早期に対処することが必要です。

〇之〇さん

優等生に見え、ハートワークを通じ、作業所一押しで、郵便局への就職に繋がりました。職場でも評判が良く、障害者像を変えるとまで言われていましたが、徐々に崩れ、最後は、知人の所に入り込んで破局を迎えました。その後回復し、リトルハウスに通所するも、また、同じように混乱状態を来し、この時も知

人の所に入り込み、破局を迎えています。

気遣いし外面がいい分、反対に、沢山の不満でストレスをため込んでしまいがちです。父がアルコール依存ということもあり、幼いころより、家族の中で役割が強調され、良い子を演ずるようになったかもしれません。

検討の結果

家族との距離が一つのテーマになると思われます。症状変化が速いケースでは、本人の調子のよい時に話し合っ、兆候が現れたら早めに受診することを決めておく必要があります。本人の頑張りすぎに目を配ることも必要です。SSTによる再発防止モジュールなどの訓練も有効かもしれません。

最後に印象に残ったこと—先生は病職を捉える時に、人との繋がりを持てるかがポイントとおっしゃっていました。

12月の行事

<12月1日>板橋GH会議

<12月17日>理事会

<12月29日~1月4日>年末年始休日